

*CHEMICAL PRODUCTS
LAMINATES AND BUILDING MATERIALS*

第124期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日

AICA

アイカ工業株式会社

証券コード：4206

株主の皆さまへ

Top Message



代表取締役 会長

小野 勇治



代表取締役 社長執行役員

海老原 健治

「Value Creation(付加価値の創造)」に挑戦し、 持続的な成長とより一層の企業価値向上に努めてまいります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループ第124期第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)の営業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類感染症に移行し、経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しました。アジア・オセアニア地域の経済につきましては、中国では景気の回復に減速感が見られますが、その他の地域では好調に推移しました。しかしながら、足元では原材料価格が再度高騰している上、円安の進行や世界的な金融引き締めによる景気への影響など、国内外ともに先行きは不透明な状況で推移しております。

国内建設市場においては、住宅着工戸数は、貸家は増加しましたが、持家やマンションが減少し、前年を下回りました。非住宅関連においては、店舗、工場、倉庫などの着工面積が減少し、前年を下回りました。

このような経営環境の下、当社グループは、中期経営計画「Value Creation 3000&300」の基本方針に基づき、収益性の改善、成長事業の創出・育成、健全な経営基盤の構築などを推進いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高113,307百万円(前年同期比3.7%減)、営業利益11,406百万円(同20.9%増)、経常利益12,047百万円(同17.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益7,390百万円(同14.8%増)となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株当たり52円といたしました。

今後の景気動向につきましては、国内経済は、コロナ禍の終息・経済社会活動の正常化に向けた動きの加速に加え、雇用・所得環境の改善や各種政策効果により、緩やかな回復が続くことが期待されます。しかしながら、世界経済の回復ペースは依然遅く、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなっています。今後は、物価上昇や金融資本市場の変動などの影響に十分注意する必要があります。

このような経営環境の下、当社グループは、引き続き中期経営計画の基本方針に基づき、収益性の改善、成長事業の創出・育成、および気候変動対応・人的資本をはじめとした経営基盤の構築などを推進してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月

CONTENTS

株主の皆さまへ	1
セグメント別のご案内	3

財務情報	5
連結貸借対照表(要約)	
連結損益計算書(要約)	
連結キャッシュ・フロー計算書(要約)	

企業活動のご案内	7
会社の概要	8
株式の状況	9
株主メモ	10

セグメント別のご案内

Introduction of Each Segment

化成品セグメント

売上高 **63,697** 百万円

56.2%

[売上高構成比]

接着剤系商品は、国内においては、合板用接着剤が低迷しましたが、施工用接着剤やアクリル・コンパウンド製品が好調で、売上が前年を上回りました。海外においては、原材料価格の低下が売価に影響を与え、売上は前年を下回りました。

建設樹脂系商品は、外装・内装仕上塗材「ジョリパット」が好調に推移したことから、売上が前年を上回りました。

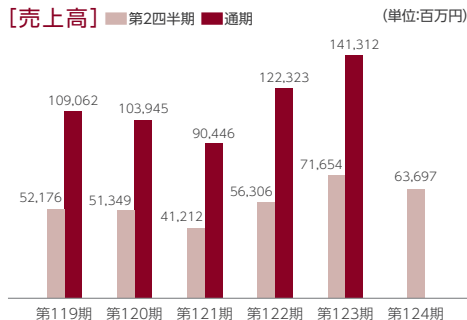
非建設分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、国内においては、化粧品用途の有機微粒子や電子材料用途のUV硬化型樹脂が好調でしたが、工業用途の有機微粒子が低調で、売上は前年を下回りました。海外においても、テキスタイル用のウレタン樹脂やパッケージ用のUV硬化型樹脂等が低迷し、売上が前年を下回りました。

このような結果、売上高は63,697百万円（前年同期比11.1%減）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は4,225百万円（前年同期比11.7%増）となりました。

アイカエコエコボンド



アイカエコエコボンド

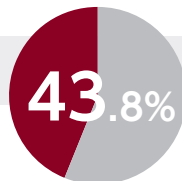


外装・内装仕上塗材 ジョリパット
物件名: はこ
設計: kufu
撮影: TOREAL (藤井浩司)



UV硬化型樹脂 (車載ディスプレイ部分)
※使用イメージ

建装建材セグメント



[売上高構成比]

売上高 **49,610** 百万円

メラミン化粧板は、国内においては、ホテルや医療福祉施設などの非住宅市場での需要を獲得し、売上が前年を上回りました。海外においても、東南アジア各国で売上が好調に推移し、売上が前年を上回りました。

ボード・フィルム類は、粘着剤付化粧フィルム「オルティノ」が堅調でしたが、汎用的なポリエステル化粧合板が横ばいで推移し、全体としても売上は横ばいでした。

メラミン不燃化粧板「セラル」は、キッチンパネル用途は横ばいで推移しましたが、医療福祉施設や店舗などの非住宅需要を獲得するとともに、高意匠メラミン不燃化粧板「セラルセレント」や抗ウイルスメラミン不燃化粧板「セラルウイルテクトPlus」の採用が新築・改修向けともに拡大し、売上が前年を上回りました。

不燃建材は、アクリル樹脂系塗装けい酸カルシウム板「ルナライト」や非住宅向けの不燃ボード「マーレス不燃」が好

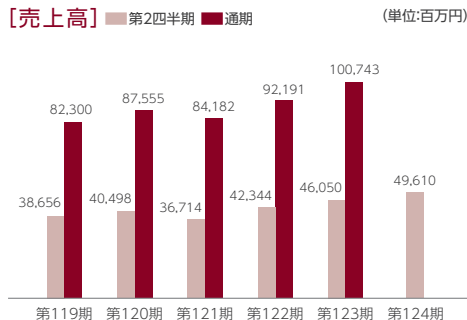
調でしたが、押出成形セメント板「メース」が低調に推移し、売上が前年を下回りました。

住器建材は、住宅向け洗面化粧台「スマートサニタリー」や非住宅向けのトイレブース、汎用的なポストフォームカウンターが新築・改修向けともに好調で、売上を伸ばすことができました。

このような結果、売上高は49,610百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は9,090百万円（前年同期比21.9%増）となりました。



粘着剤付化粧フィルム オルティノ
物件名：白石龍クリニック
設計：シコウ+デ+サイン一級建築士事務所
撮影：uruphoto (吉永 真利江)



高意匠メラミン不燃化粧板 セラル セレント
物件名：聖蹟桜ヶ丘マンションリノベーション
設計：Renocence株式会社
撮影：株式会社 ao's design (奥村 輝)



住宅向け洗面化粧台 スマートサニタリー
物件名：株式会社はなおか モデルハウスSHABBYII
設計：株式会社はなおか

財務情報 (連結)

Financial Information

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科目	第124期 第2四半期 2023年9月30日現在	第123期 (前期) 2023年3月31日現在
資産の部		
流動資産	168,500	159,279
固定資産	97,738	90,769
有形固定資産	64,566	60,872
無形固定資産	12,110	12,532
投資その他の資産	21,061	17,365
資産合計	266,239	250,049
負債の部		
流動負債	61,926	59,669
固定負債	33,986	32,305
負債合計	95,912	91,974
純資産の部		
株主資本	135,617	131,986
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	8,545	8,541
利益剰余金	123,308	119,695
自己株式	△6,128	△6,141
その他の包括利益累計額	20,028	13,215
その他有価証券評価差額金	6,456	4,270
繰延ヘッジ損益	△2	△12
為替換算調整勘定	13,600	8,962
退職給付に係る調整累計額	△26	△5
新株予約権	19	23
非支配株主持分	14,660	12,848
純資産合計	170,326	158,074
負債純資産合計	266,239	250,049

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科目	第124期 第2四半期 2023年4月1日から 2023年9月30日まで	第123期 第2四半期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
売上高	113,307	117,704
売上原価	83,511	90,493
売上総利益	29,796	27,211
販売費及び一般管理費	18,390	17,773
営業利益	11,406	9,437
営業外収益	995	1,243
営業外費用	354	387
経常利益	12,047	10,294
税金等調整前四半期純利益	12,047	10,294
法人税、住民税及び事業税	3,869	3,111
法人税等調整額	153	308
四半期純利益	8,024	6,873
非支配株主に帰属する 四半期純利益	633	437
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,390	6,436

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

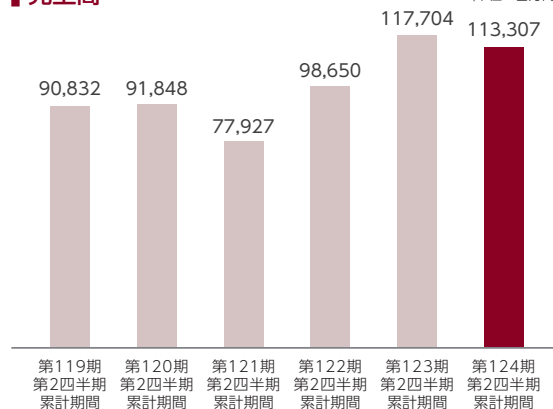
(単位：百万円)

科 目	第124期 第2四半期 2023年4月1日から 2023年9月30日まで	第123期 第2四半期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	15,630	7,247
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,184	△5,020
財務活動による キャッシュ・フロー	△5,655	△4,400
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,755	2,717
現金及び現金同等物の 増減額	10,546	544
現金及び現金同等物の 期首残高	47,943	44,997
現金及び現金同等物の 四半期末残高	58,490	45,542

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

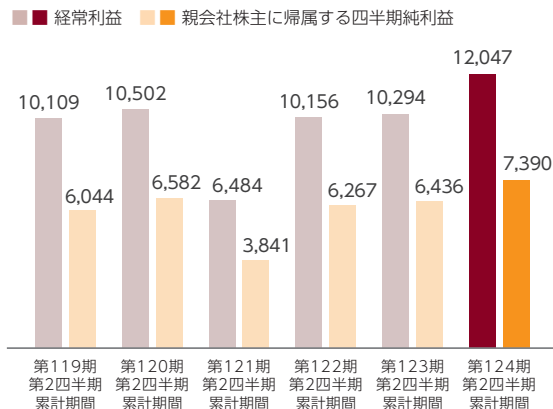
■ 売上高

(単位：百万円)



■ 経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位：百万円)



■ 配当について(剰余金処分)

当期の中間配当金は、2円増配し1株当たり52円といたしました。
 期末配当につきましては、1株当たり59円を予想しております。

企業活動のご案内

Corporate Activities

アイカ広東社が新工場を建設 総投資額約60億円、接着剤等の生産能力を約2倍に増強

当社グループは、化成品海外事業において、アジア・オセアニア地域における旺盛な需要を取り込むべく、生産能力の増強に注力しています。中でも、フェノール樹脂は基幹商品であり、中国3大プロジェクト*と題して中国で3工場の立ち上げに取り組んでいます。

その第一弾として、総額約60億円(2億9,300万元、1元=20.35円)をかけてアイカ広東社のフェノール樹脂をはじめとした接着剤等の製造工場を拡張移転し、2023年9月より本格稼働を開始いたしました。これにより、従来に比べて生産能力は約2倍に向上します。

当社グループは中国3大プロジェクトによってさらなる成長を図り、2022年度に1,413億円であった化成品セグメントの売上高を、2026年度には1,750億円へ伸長させる計画です。

* 中国3大プロジェクト: アイカ広東社、アイカ福建社、アイカ南京社の中国3工場立ち上げへの大型設備投資。

社名	事業内容	稼働時期
アイカ広東社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤等の製造	2023年9月
アイカ福建社	竹材用フェノール樹脂等の製造	2024年春(予定)
アイカ南京社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂等の製造	2026年目処



新工場全景

■ 新工場の概要

名称	アイカ広東社 パークサイド工場
所在地	広東省肇慶市高要区金利鎮産業大道88号 (アイカ広東社本社より西に約10km)
敷地面積	37,358㎡
延べ床面積	16,286㎡ (RC造)
稼働開始	2023年9月
設備投資額	総額約60億円(2億9,300万元、 1元=20.35円にて計算)

アイカ・ラミネーツ・インディア社が 当社グループ初の中東拠点・ドバイ支店を開設

当社グループは、建装建材海外事業において、日本国内でシェアNo.1を誇るメラミン化粧板(以下、「HPL」)を海外でも拡販すべく、販売網の構築に注力しています。インドでHPLの製造・販売を行うアイカ・ラミネーツ・インディア社(以下、「ALIP社」)は、設備の改良・新規導入により生産能力を増強し、2027年度には現在の販売量を1.5倍に向上させる計画です。

同社はインド国内の販売に加え、若年層人口が多くインフラ整備が進んでいる中東地域でHPL市場拡大を図るため、GCC*地域の玄関口であるアラブ首長国連邦(UAE)・ドバイに営業拠点を開設しました。ALIP社ドバイ支店は在庫を完備しており、域内においてスピーディーできめ細かなデリバリーが可能となります。これにより、設計段階での提案活動など、中東エリアでの営業活動を進めながら、域内の売上を2025年度に5.5億円とする計画です。

当社グループは、ドバイ支店の開設を機に中東エリアでのビジネスを拡大させ、建装建材海外事業のさらなる飛躍を目指してまいります。



アイカ・ラミネーツ・インディア社ドバイ支店

* GCC: 湾岸協力会議 (Gulf Cooperation Council) の略称。加盟国はUAE、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーンの6か国。

会社の概要 (2023年9月30日現在)

Company Information

プロフィール

社名	アイカ工業株式会社
本社	名古屋市中村区名駅一丁目1番1号J Pタワー名古屋26階 電話 052(533)3131(代表)
本店所在地	愛知県清須市西堀江 2288 番地
設立	昭和 11 年 10 月 20 日
資本金	98 億 9,170 万円
事業所	
生産拠点	名古屋工場 (愛知県) 甚目寺工場 (愛知県) 福島工場 (福島県) 伊勢崎工場 (群馬県) 茨城工場 (茨城県) 丹波工場 (兵庫県) 広島工場 (広島県)
開発拠点	名古屋 R & D センター (愛知県) 甚目寺 R & D センター (愛知県) 福島 R & D センター (福島県) 伊勢崎 R & D センター (群馬県) 茨城 R & D センター (茨城県) 丹波 R & D センター (兵庫県)
営業拠点	札幌支店 仙台支店 盛岡営業所 東京支社 埼玉支店 横浜支店 千葉支店 北関東支店 松本営業所 宇都宮営業所 新潟営業所 名古屋支店 静岡支店 北陸支店 大阪支店 神戸支店 京都営業所 広島支店 四国支店 福岡支店 鹿児島支店

重要な子会社

会社名	アイカインテリア工業株式会社 (愛知県)
	アイカハリマ工業株式会社 (兵庫県)
	西東京ケミックス株式会社 (東京都)
	アイカテック建材株式会社 (東京都)
	アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社 (シンガポール)
	エパモア・ケミカル・インダストリー社 (台湾)
	アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング社 (タイ)
	アイカ・ラミネーツ・インド社 (インド)
	アイカ・ラミネーツ・ベトナム社 (ベトナム)
	ウィルソナート・タイ社 (タイ)
	ウィルソナート上海社 (中国)

主要製品

化成品セグメント 外装・内装仕上塗材、塗り床材、各種接着剤、有機微粒子、他

建装建材セグメント メラミン化粧板、化粧合板、室内用ドア、インテリア建材、カウンター、収納扉、不燃化粧材、押出成形セメント板、他

取締役および執行役員

代表取締役 会長	小野 勇 治
代表取締役 社長執行役員	海老原 健 治
取締役 常務執行役員	大村 信 幸
取締役 常務執行役員	岩 塚 祐 二
○取締役 役	蟹 江 浩 嗣
○取締役 役	清 水 綾 子
取締役 監査等委員	森 良 二
○取締役 監査等委員	宮 本 正 司
○取締役 監査等委員	山 本 光 子
常務執行役員	小瀬村 久
常務執行役員	石 井 寛 之
上席執行役員	Chew Teck Liong
上席執行役員	市 川 豊 明
上席執行役員	倉 本 寛 直
執行役員	Lee Kin Seng
執行役員	酒 井 信 禎
執行役員	乾 功 一 郎
執行役員	森 島 英 謙
執行役員	何 文 杰
執行役員	石 井 直 美
執行役員	金 川 元 勇
執行役員	田 邊 裕 勝

(注) ○印は社外取締役であります。

株式の状況 (2023年9月30日現在)

Stock Information

- 1.株式の総数 発行可能株式総数 116,577,000株
発行済株式の総数 67,590,664株
- 2.株主数 9,083名
- 3.大株主 (上位10名)

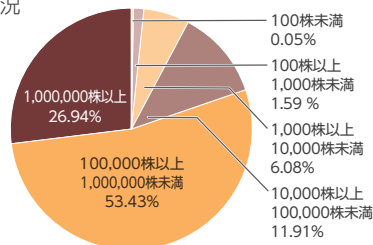
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,718	16.74
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,689	5.76
アイカ工業取引先持株会	2,350	3.67
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	1,741	2.72
アイカ工業株式保有会	1,612	2.52
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	1,331	2.08
住友生命保険相互会社	1,318	2.06
株式会社三菱UFJ銀行	1,300	2.03
大日本印刷株式会社	1,293	2.02
東京海上日動火災保険株式会社	931	1.46

(注) 1.当社は、自己株式3,572千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

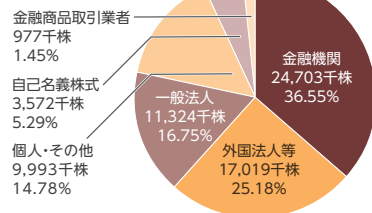
2.持株比率は、自己株式3,572千株を控除して計算しております。

4.株式分布状況

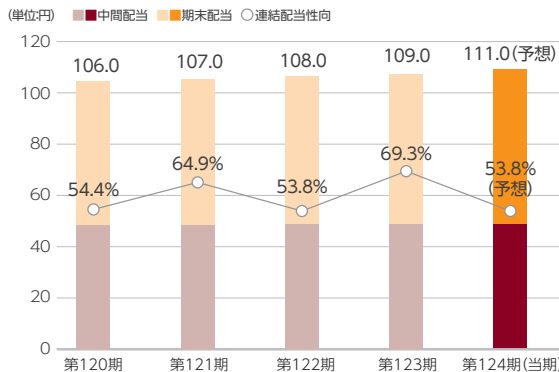
[所有株数別]



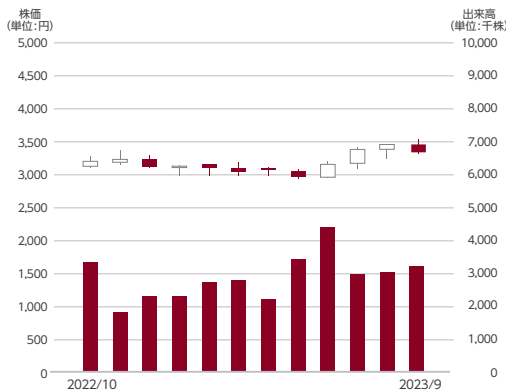
[所有者別]



配当金の推移



株価・売買出来高の推移 (東京証券取引所)



「日経連続増配株指数」の構成銘柄に選定

当社は2023年6月、日本経済新聞社が新たに開発した「日経連続増配株指数[®]」の構成銘柄に選定されました。中期経営計画「Value Creation 3000 & 300」(2024年3月期～2027年3月期)においては、減配をしない累進配当を継続することを基本方針としており、当社は株主の皆さまへの利益還元と会社の持続的な成長の実現に向け注力してまいります。

※「日経連続増配株指数」は、日本経済新聞社が新たに開発した株価指数で、国内上場企業を対象に、連続で原則10年以上配当を増やしている企業のうち、その年数の上位から70銘柄を上限に選定した上で、指数が計算されています。

株主メモ

Shareholder Memo

事業年度	4月1日～翌年3月31日
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場
名古屋証券取引所プレミアム市場

公告の方法 電子公告により行います。公告掲載URL <https://www.aica.co.jp/>
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

〈ご注意〉

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
・特別口座から一般口座への振替請求 ・単元未満株式の買取（買増）請求 ・住所・氏名等のご変更 ・特別口座の残高照会 ・配当金の受領方法の指定（※）	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	手続き書類のご請求方法 ●証券代行部テレホンセンター 電話 0120-232-711 ●インターネットによるダウンロード https://www.tr.mufj.jp/daikou/

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はご選択いただけません。

●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
・郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ・支払期間経過後の配当金に関するご照会 ・株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等	にお問合せください。

AICA

化学とデザインで面白いこと

